

和泉市信太山丘陵市有地公園協議会 平成 30 年度総会  
議事録（要旨）

開催日時：平成 30 年 6 月 3 日（日）午後 2 時～午後 4 時

場 所：和泉市役所 3 号館 3 階市議会委員会室

出席者：平成 30 年度和泉市信太山丘陵市有地公園協議会会員

（1）学識経験者〔特別会員 A〕（50 音順、敬称略）

大阪市立大学大学院工学研究科教授	内田 敬
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授	藤原 宣夫
大阪府立大学名誉教授	増田 昇

（2）地元町会・自治会〔特別会員 B〕（50 音順、敬称略）

和泉市民	名倉 克巳
------	-------

（3）その他前和泉市信太山丘陵保全・活用検討ワークショップ会員  
〔特別会員 C〕（50 音順、敬称略）

和泉市民	田丸 八郎
和泉市民	三輪 健一郎

（4）〔団体会員〕（50 音順、敬称略）

信太の森 FAN クラブ代表	（島崎委員代理）谷口 敏雄
いずみの国の自然館クラブ代表	梁取 征弘

（5）〔一般会員〕（50 音順、敬称略）

一般会員	稲井 佳奈枝
一般会員	金谷 薫
一般会員	露口 裕子
一般会員	本藤 千賀子
一般会員	米田 彰一
一般会員	渡辺 憲二

（6）和泉市職員〔市側会員〕（機構順）

和泉市環境産業部環境保全課課長	前田 淳
同 課長補佐	関 憲司
同 自然環境係長	平田 裕樹
和泉市都市デザイン部道路河川室道路担当課長	稲垣 学
同 道路担当総括主幹	武市 直樹
同 道路担当主事	奥野 泰史
和泉市生涯学習部文化財振興課文化財振興係長	千葉 太郎

和泉市都市デザイン部公園緑地課課長 (事務局)		農端 広光
和泉市都市デザイン部公園緑地課課長補佐		山抱 正嗣
同	整備係長	岩田 真知
同	緑化推進係主任	野間口 知基
同	整備係主任	長縄 辰彦
同	整備係主事	加藤 拓斗

## 次 第

### 1. 開会

- (1) 会長挨拶
- (2) 会員紹介

### 2. 議事

- (1) 平成29年度事業報告
  - 総会・企画運営会議・利用調整会議
  - 公園整備計画
  - 湿地保全
  - 環境保全活動
  - 信太山里山講座
  - 自然観察会
  - 市道信太5号線の計画について
- (2) 平成30年度事業等計画
- (3) 今後のスケジュール

### 3. その他

上記2. 議事の(1)の総会・企画運営会議・利用調整会議(総括資料)について資料1に基づき事務局(和泉市都市デザイン部公園緑地課)より説明した。

上記2. 議事の(1)の公園整備計画、湿地保全、環境保全活動、信太山里講座、自然観察会について資料2～5に基づき事務局(株式会社ヘッズ)より説明した。

上記2. 議事の(1)の市道信太5号線の計画について資料6に基づき都市デザイン部道路河川室より説明した。

上記2. 議事の(2)について資料7に基づき事務局(和泉市都市デザイン部公園緑地課)より説明した。

上記2. 議事の(3)について資料8に基づき事務局(和泉市都市デザイン部公園緑地課)より説明した。

－凡例（公園協議会会員の区分）－

（学識）：学識経験者（地元）：地元町会・自治会

（前ワーク）：前和泉市信太山丘陵保全・活用検討ワークショップ会員

（団体）：団体会員（一般）：一般会員（市職員）：和泉市職員

（事務局）：事務局

## **2.（1）平成29年度事業報告**

＜総会・企画運営会議・利用調整会議（総括資料）について資料1に基づき事務局（和泉市都市デザイン部公園緑地課）より説明した。＞

＜公園整備計画、湿地保全、環境保全活動、信太山里講座、自然観察会について資料2～5に基づき事務局（株式会社ヘッズ）より説明した。（二次草原の早期再生に関する現地実験については、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 藤原氏より説明した。）＞

＜市道信太5号線の計画について資料6に基づき都市デザイン部道路河川室より説明した。＞

- ・ロードキル対策について、施設をどんな形状で検討を進めているか？  
→今後調整していく。
- ・ロードキル対策の対象動物については、「カスミサンショウウオとニホンアカガエルを対象に移動妨害にならないように検討した結果、この2種類は、道路横断施設で対応する。」という趣旨である。
- ・草原について、目指す草原の状態によって管理の戦略が異なるので、どのような草原を目指しているのかを今後検討する必要がある。
- ・照葉樹林については、どこまで議論したのか？  
→まだ詳細を議論していない。今後検討していく。
- ・大径木について、ナラ枯れの問題は大丈夫であるか？信太山丘陵市有地周辺のナラ枯れの状況はどのような状況か？  
→近隣の野外活動センターではナラ枯れの被害がでている。
- ・信太山丘陵市有地のコナラ林はまだ若いため問題ないかもしれないが、今後対策を検討していく必要がある。
- ・湿地の現況調査について、定点を決めて撮影しているか。角度、画角を決めて撮影しているか。また、高木の鬱蔽に関する問題はないのか。  
→高木の鬱蔽問題はある。何年かしたら枝葉の刈取を検討する必要がある。

## 2. (2) 平成30年度事業等計画および (3) 今後のスケジュール

<平成30年度事業等計画について資料7に基づき事務局（和泉市都市デザイン部公園緑地課）より説明した。>

<今後のスケジュールについて資料8に基づき事務局（和泉市都市デザイン部公園緑地課）より説明した。>

- ・事業計画に関して、環境保全活動、信太山里山講座、自然観察会、公園整備計画など、各項目に関連する横断的な要素として広報関係を重点的に取り組んでほしい。
- ・信太山里山講座の受講生や環境保全活動の参加者をどう広げていくかを考える必要がある。自然観察会は2回しかなく、環境保全活動も現在のメンバー中心であり、開園に向けて市民の巻き込みが遅い気がする。
- ・信太山里山講座は協議会に入会して活動していただく方が対象であるが、参加者拡大の新しい取組を進めていかなければならない。
- ・あと、市のイベント時などにパネルなどを展示するなどの広報展開はできないのか。
- ・30年度は公民協働のしくみを検討してほしい。公園協議会、企画運営会議、利用調整会議があるが、現状でうまく連携しているとはいえない。今後の管理運営を見据えて、検討する必要がある。
- ・環境保全活動について、ネザサ刈などの草刈をしていることをまだまだ知らない市民が多い。環境保全活動をしているところを見学してもらうなどPRが必要だと考える。
- ・子育て、高齢者福祉などをテーマにした記事が示されている市の広報については、見る方も多いので、広報戦略の中でどうPRするかを検討する必要がある。
- ・北部リージョンセンターなどの公共施設にPR用の立て看板を設置するなどの取組を進めてはどうか。また、近くの自治会にPRできるようなものを配布してはどうか。
- ・信太山里山講座のチラシは、誰に向けて、何処でどのように配布するのか。またどんな戦略でまくのか。広報戦略の検討が必要である。
- ・今後のスケジュールで第一期開園エリアの検討とあるが、開園について市の考えを教えてください。

→今年度は先ず、都市計画の手続きを進め、国の補助金をもらってからのスケジュールになる。また、国・府と調整しながら予算を詰めていくことが必要であり、来年度に事業認可の手続きとなる。敷地は市のものになっているが、国・府と調整しながら第一期エリアの具体的な開園を考える必要がある。相談しながら検討していきたい。

- ・何を目標にどの期間までがんばったらいいのか、活動している市民としても見えてこない。具体的な中長期スケジュールを盛り込んで欲しい。

→今年度はそのような検討も進めていきたい。

- ・平成36年に一部開園を目標としているが、全開園はいつごろなのか、この1～2年で

方向性を出してほしい。

- ・惣ヶ池湿地まで含めて都市計画決定できないのか。  
→まず、定められた区域を公園として整備する手続きを優先して行うことを考えている。  
また機会があれば次の展開で方向性を探りたい。  
→本協議会の検討対象ではない。
- ・湿地観察などができる広い場所はここしかないことから、現段階では都市計画決定とは関係なくても、将来を見据えて、信太山丘陵市有地と切れない関係にしておく必要がある。
- ・今年度都市計画決定手続に関して、勝手に資料が一人歩きしないように都市計画審議会ですんなり資料を出すのか、協議会に示しながら手続きを進めてほしい。
- ・名称に「自然公園」がついてもいいのではないか。「信太山丘陵里山自然公園」、「信太山里山自然公園」がふさわしいと思う。信太山丘陵の自然は和泉葛城山系の自然豊かなポイントであるということから「自然」ははずせない。  
→自然公園法との関係で「里山自然公園」が認められない場合、「自然里山公園」となる可能性がある。
- ・「信太山丘陵里山自然公園」がわかりやすいのでこれで法手続き上、大丈夫かを府と調整して進めてほしい。
- ・法定手続きの名称以外でも、他の事例では愛称（ニックネーム）をつける場合もある。
- ・平成30年度は、①広報戦略、②管理運営のしくみ、③中長期計画・スケジュールの3点も進めて欲しい。

### 3. その他

- ・議事録については、要点記録で作成する。次回の会議については、9月から10月頃に予定している。

以上